



太陽の光が、少しずつ
透き通ってきました。
秋ですね。



1年生：平泉研修



8月26日(火)、「世界遺産 平泉」を舞台に、1年生の校外研修が行われました。中尊寺散策や座禅体験、毛越寺を含むエリアの班別研修を通し、**平泉文化と共に、「仲間と行動すること」を体験的に学びました。**自主研修では無事に集合できましたが、中にはメンバーがはぐれた班もありました。課題が明らかになった分、今後進むべき道が明らかになったととも有意義な研修でした。



始業式【1年生】二学期の決意

小野寺 結愛

私たちのクラスでの二学期の決意は大きく二つあります。

一つ目は、平泉研修を成功させることです。スローガンは「有終の美」。始めたことを最後まで立派にやり遂げるという意味で、平泉研修のスローガンに相応しいと思い、決めました。研修での学習目標は「人の話を聞き、きちんとテキパキ行動する」「生活目標は、人の邪魔にならない行動をし、周りの人にあいさつを心がける」です。この目標を意識し、平泉研修を成功させたいです。

二つ目は、文化祭を成功させることです。一年生は初めての文化祭でわからないこともあるかもしれませんが、先輩たちの行動などを参考にして文化祭を成功させたいですし、合唱では三年生に負けないように全力で練習に取り組み、来てくれた人に合唱を披露したいです。

その他にも、1学期末向上運動の反省で出された「授業中の態度」などにも気を付けていきたいし、もしできていない人を見つけたらお互いに注意し合ってしっかりと直していきたいと思います。

2年生：社会体験学習



8月25日(月)～29日(金)の5日間、市内の事業所にて2年生の体験学習が行われました。これは、キャリア教育の一端として一関市全体で取り組んでいる事業です。1学期のジョブカフェ出前授業を生かし、生徒17人がそれぞれ異なる事業所で「働くこと」を体験しました。リアルな世の中に触れ、労働は生きていくための収入源であると同時に、社会を支えたり自分の生きがいに繋がったりと様々な側面があることを学びました。各事業所で「東中の生徒さんは明るく一生懸命働いていますよ!」と嬉しいお声をいただきました。お忙しい中、人づくりにご協力いただいている事業所の皆さんに感謝です。



始業式【2学年】二学期の決意

小山 昂

2学期には新人戦、生徒会役員選挙など、私たちが上に立つことや立つ人を決める行事があります。今後の学校のことを決める大事な行事です。しっかり考えて、学校をもっとより良くしていくために頑張ります。新人戦は新しい体制で臨む大会となり、二年生がとても頑張らなければなりません。各部活動での新人戦へ向けた目標にしっかり近づけるよう頑張ります。そして二学期では期末向上運動の反省である「拳手・発言」を頑張り、学級がもっとより良くなるように頑張ります。一人一人が自覚を持ち、皆が自主的に自分から行動できる学級にしていくように頑張ります。

R7 全国学力・学習状況調査結果



今年の4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が7月31日に公表されました。この調査は、全国の中学校3年生を対象に、国語・数学・理科の学力を問う問題と、生徒の学習・生活環境に関するアンケートにより生徒の実態を把握するものです。

本校3年生の調査結果は、学力については調査した全教科（国語・数学・理科）のすべてが全国平均及び県平均と比較して上回っています。また、アンケート結果についても「自分に良いところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「人が困っているときは進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「学校に行くのが楽しい」「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」等の項目で、全国平均

や県平均と比較して肯定的回答割合が上回っていました。また、本校3年生の特徴として、「ICT 機器を活用した学習」にかかわる質問への肯定的回答が多く、個に応じた学習や意見交換・まとめなど、授業や宿題等で日常的に活用している成果が表れています。一方で「将来の夢や目標を持っている」の項目の肯定的回答は、全国平均より高いものの県平均をわずかに下回る結果となりました。入試や将来の職業といった面の指導と同時に、「様々な人の様々な生き方」に触れ、生きることへの肯定感が高まるような機会を設けたいと考えています。今後、この調査結果を基にさらに教育活動の充実に努めてまいります。★★★★★★★★★★★★★★

ヒロシマ・ナガサキ原爆展



学校は、生徒たちがいろいろなことを学ぶ場です。

人の考えや思いに触れ心を通わす力（国語/英語など）、その背景となる豊かな感性や情操の育成・表現する力（国語/音楽/美術/英語など）、論理的な思考力と冷静な判断力（国語/数学/理科など）、私たちの生活を支える社会のしくみや文化・科学技術（社会/理科/英語/技術家庭など）、人類が経験してきた正の遺産と負の遺産（社会/理科/技術など）、生きる上での土台となる心身への理解と体力の向上（保健体育/家庭など）、人類が創り育ててきた崇高な価値や探究（特別の教科「道徳」/総合的な学習の時間など）といった教科の学習もあれば、日々の生活や生徒会・部活動等の中で、よりよい生活や未来を築くための「自己理解と他者理解」「人権」「自己調整力」「民主主義」「思いやりの心と行動」「対立や利害関係の調整」「協力」「挑戦」「頑張り抜く姿勢」「自ら価値を創り出す姿勢」「世の中とどうつながって自己実現や社会貢献を目指すか」等々…。

第二次世界大戦の終結から今年で80年。生徒の未来は明るいものであってほしいと思います。

先の戦争では広島・長崎に人類初の核兵器による殺戮が行われました。一閃では戦場での4600人を超える戦死者の他、空襲や機銃掃射によって地元にながらも34人の尊い命が失われました。本校では現在、グローバル教育・平和教育の一環として「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催し、パネルや書籍等で紹介しています。まずは「知る」ことから。生徒自身が「自分ごと」として戦争を考える機会になればという願いを込めて。あわせて、「一閃の空襲」についても紹介しています。

【～9月11日（木）までメディアスペースにて。（※9月後半は「一閃の水害」展を予定。）】

文化の秋・運動の秋

先週今週の「わたしの主張」「英語暗唱・英語弁論」、来週の「地方駅伝」「独唱大会」「新人大会」「3年実力テスト」、合唱練習…東中生の挑戦が楽しみな季節です。DO ONE'S BEST!!



ENGLISH RECITATION CONTEST

一関地方中学校英語暗唱大会：第6位 小野寺 陸さん

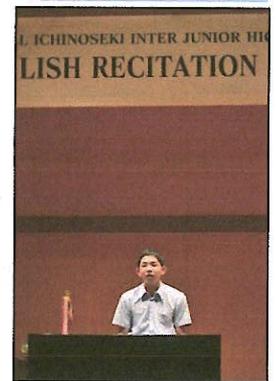
岩手県英語暗唱・弁論大会：小野寺陸さん、千葉一希さん



〈一関地方英語暗唱大会〉8月29日(金) 一関市川崎市民センター

題材は「A Mother's Lullaby (ある母親の子守歌)」。広島 の道端に立つ一本の古い大きな木。長い間、過ぎゆくたくさんの出来事をじっと眺めてきたその木が、自分の足元から聴こえる「子守歌」の優しく愛おしみのこもった響きと幸せそうな親子の様子に、80年前の悲しい出来事を思い出した…という出だしに始まるこの題材。原爆投下直後、被爆で苦しむ小さな息子を抱いた瀕死の若い母親が、「お母さん、お母さん」と泣きじゃくる我が子に、「泣かないで…大丈夫よ…」と声をかけながら子守歌を歌い続けたという話です。やがて腕の中の小さな我が子の泣き声が聴こえなくなり静かに息を引き取っても子守歌を歌うことをやめない若い母親。その歌声は少しずつ弱くなり…。

陸さんはトップバッター。プレッシャーを跳ね除け情感豊かに悲しみを表現し、見事6位に入賞しました。“She was very weak, but she tried to be a mother to the poor little boy”…母親の、悲しくも強い意志のこもった英語的な表現が印象に残る素晴らしい発表でした。



〈岩手県英語暗唱・弁論大会〉9月1日(月) 於 盛岡市 アイーナ・いわて県民情報交流センター

小野寺陸さんは「暗唱部門」に出場。地区大会の経験をもとに終始柔らかい表情で、さらにアップグレードされた表現を見せてくれました。また「スピーチ部門」に出場した千葉一希さんは、趣味の日舞をテーマに「Nichibu, My Shining Treasure (日舞、私の輝ける宝物)」という題で原稿を作成、幼い頃から続けてきた日舞への思いを人に伝えるにはどのようにしたらよいかを考え、ジェスチャーや強弱をつけるなど試行錯誤して臨みました。一希さんはスピーチ部門のトップバッター。県の大きな舞台でしか味わえない緊張感やり遂げた喜びもひとしおだったことと思います。グローバル化が進む中、日本の伝統文化とその魅力を英語で伝える試みは、「共有と敬意」を学ぶ大きな機会になったことと思います。「頑張った人は、頑張った分だけいい思いをする」のです。



一関地方独唱大会 W 優秀賞受賞！

「主人は冷たい土の中に」金野 柚妃さん・佐藤 紅杏さん

「夏の思い出」千葉 愛莉さん・白鳥 結羅さん

9月9日(火)、一関文化センターにて令和7年度の一関地方独唱大会が開催されました。



出場した全30組中1年生の歌唱は本校のみ、2年生は本校含め2組、他27組は3年生の歌唱でしたが、生徒たちは臆することなくそれぞれの持ち味を發揮して会場にさわやかな演奏を響かせました。演奏が終わった4人の表情の何と清々しかったこと！透明で明るい歌声とその魅力を引き出すピアノ伴奏も評価され、ダブルで優秀賞を受賞、



講評では「1, 2年生に驚かされた。自然で明るく素直な発声、ていねいな表現！」との言葉をいただきました。

英語暗唱・弁論と「独唱は、文化祭(10/26)にて披露します…お楽しみに！」

第2回学校運営支援協議会 生徒の学びを支える大人の連携②



一関市学校運営支援協議会規則 第3条〈協議会の目的〉

校長の権限と責任の下に学校及び地域住民、保護者等が協議することにより、地域住民の学校に対する支援及び協力を促進し、学校と地域住民、保護者等の信頼関係を深め、もって学校運営の改善並びに児童生徒の健全育成を図るものとする。
(令和4年1月31日 教育委員会規則第1号)

昨年度立ち上げた本校の学校運営支援協議会、お陰様で2年目を迎えています。文部科学省で推進している「学校運営協議会（コミュニティスクール）」を、一関市ではさらに「サポート」の色合いを濃くし「学校運営支援協議会」という形で進めています。昨年度は学校運営に関わり、経営方針やまなびフェストの承認、教育についてのアンケート結果分析に対する質疑等など本校の学校運営に関する協議と熟議を柱として進めてきました。本年度は「東中生の教育をどう支えていくか」についての具体を、地域住民、保護者の視点から協議しているところです。

9月5日（金）の第2回協議会では、現代の学校に求められている教育の変化と働き方改革について説明があり、地域に開かれた教育課程の意義について理解を広め仲間を増やすための「情報発信」を軸に熟議が行われました。今後も深めていく予定です。

学校運営支援協議会は傍聴することができます。近くなりましたら、一関市のHP上で告知されますのでご確認ください。また、協議会の会議内容は一関市のHPで公開されています。

「子どもは地域の未来」…大きく変わりゆく時代、子どもたちの成長（地域の未来づくり）に大人としてどんな支援ができるかを当事者として考え、様々な立場の人たちと協働しながら実現する機運が高まることを期待しています。

会長	佐藤 和枝	一関東中学校 PTA 会長	真滝
副会長	井上 海	一関東中学校 PTA 副会長	弥栄
副会長	菅原 理日	一関東中学校 校長	一関東中
委員	佐々木春枝	一関東中学校元評議員	弥栄
	吉田 聖樹	牧澤神楽保存会代表	真滝
	佐藤 勝	富沢神楽保存会代表	弥栄
	鈴木 征子	真滝地区主任児童委員	真滝
	尾形 正代	弥栄地区主任児童委員	弥栄
	菅原 勝	滝沢地域振興協議会代表	真滝
	木村 篤	弥栄地区まちづくり協議会代表	弥栄
	小山 洋子	真滝幼稚園園長	真滝
事務局	小林 義幸	一関東中学校 副校長	一関東中

ワークショップ形式で、和気あいあいと話し合います



一関東中学校運営支援協議会〈今後の予定〉 第3回:12月5日(金)、第4回:2月5日(木)

※ 詳細は一関市教育委員会 HP に掲載

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,182540,102,html>

※ 傍聴の可否については HP 上に掲載されますので、ご一読の上、当日間に合うようにお越しください。



セルフケアを学ぶ「こころのサポート」授業

岩手県では、「いわて子どものこころのサポートプログラム」を進めています。東日本大震災の影響で日々の生活に不安を抱く児童生徒のサポートとして始まった事業ですが、揺れる小学校中学校時代、すべての児童生徒が「自身の心とからだの変化や反応を認識し適切に対処できる」よう「セルフケアの力」を高めることは、「生きる力」につながります。

本校では9月8日（月）、櫻井静江スクールカウンセラーにより「脳を傷つける思考と脳を育てる思考」をテーマに深呼吸によるストレス軽減について学びました。「こころのサポート授業」の後は「心とからだの健康観察」を行いました。結果は今後、教育相談等で活用してまいります。





快走！一関地方駅伝大会

男子7位(1:08:35)、女子10位(54:51)

令和7年度一関地方中学校総合体育大会駅伝競技の部が、9月8日(月)一関総合体育館周辺コースを会場に開催され、本校からも特設駅伝部男女各チームが参加しました。当日はあいにくの雨。決してコンディションがいいとはいええない中、選手たちはこれまでの練習の成果を十二分に発揮し、最後まで力強い走りを見せてくれました。

「○○さんガンバ！」生徒たちの必死な応援が続きます。遠くの方から一関東中のユニフォームを着た選手が見えてきます。応援する生徒も走る生徒も心は一つ。応援された生徒はさらに力を発揮し、中継地点を目指して最後の力を振り絞り、次のランナーに襷(たすき)をつなぎます。そんな熱いドラマが繰り広げられた大会でした。

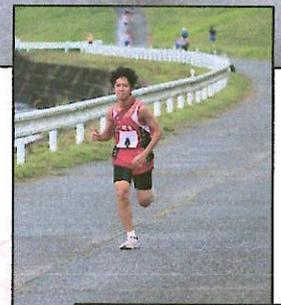
下級生が上級生を、上級生が下級生を必死で応援したくなる…それはどんな時でも頑張る互いの背中を見てきたからです。生徒数の減少、酷暑の夏、限られた練習量。そんな条件の整わない中、それぞれがチームのためにできることを考え貢献し、つないだ襷(たすき)でした。一関東中特設駅伝部メンバーの頑張りを「誇り」に思いますし、是非次の代へとつなげてほしいと願っています。

「走る」ことは楽ではありません。しかも駅伝は、「仲間につなげる競技」です。互いを信じ、仲間のために自分のベストを尽くす。東中の伝統が発揮された駅伝大会でした。

一関東中学校 特設駅伝メンバー

【女子】熊谷心羽(1区)小野寺結愛(2区)白鳥結羅(3区)山崎いちか(4区)佐藤颯希(5区)橋本さくら、千葉愛莉

【男子】佐藤丈(1区)小野寺陽斗(2区)菅原雄斗(3区)阿部輝大(4区)小山昂(5区)関創志(6区)小野寺陸、岩渕巧雅、井上柁春、槻山虎琉、上野理智、佐々木慎之介、岩渕亮太、千葉颯大、佐藤颯太



今週末は「一関地方新人大会」&「3年実力テスト」
~それぞれの場所で DO YOUR BEST!~

★第1回「教育についてのアンケート結果」より読み取れること

令和7年度「第1回教育についてのアンケート」結果がまとまりました。お忙しいところでのご協力、大変ありがとうございました。既にご家庭には配布しておりますので、ご覧になった方も多いかと思えます。

アンケート項目は全部で25項目。「生徒・保護者・教員」三者を対象にした項目と「保護者」のみを対象とした項目があります。保護者の皆さんには「我が子を見てどうか」という観点での判断をお願いしたところです。

4月のPTA総会にて承認いただいた「令和7年度まなびフェスト」に関わる項目についてのみ、以下に抜粋しました。ここに挙げられていない項目も含め生徒の肯定的回答率は高く嬉しい結果となっています。一方で、下の表中赤い文字の項目は、今一度親子で話題にするのが有効なのではないかと思えます。また、保護者の皆さんからいただいた「今後、教科以外で力を入れたい教育分野」につきましては「キャリア教育」「情報モラル教育」「ボランティア教育」が上位を占めました。今後の教育活動に反映させてまいります。

教育についてのアンケート調査項目	一関東中学校教育目標と教育についてのアンケートに関連するまなびフェストの項目		肯定的回答割合 (%)		
			生徒	保護者	教員
①学習意欲～自ら進んで学ぼうとしている	知の研鑽	意欲をもって自ら学ぼうとする 生徒の割合 80%以上	84.1	68.6	100.0
②授業がわかりやすいと感じている		「授業がわかる」と感じる 生徒の割合 80%以上	95.1	66.6	87.5
④テスト期間中、ノーメディア（セーブメディア）に取り組んだ		学習に集中するためにメディア（情報機器・ゲーム機等）の使用について見直す 生徒の割合 80%以上	69.1 (-10.9)	43.1	37.5
⑥将来の夢や希望を持っている		将来の夢や希望を持っている 生徒の割合 80%以上	76.2 (-3.8)	58.9	100.0
⑦学校が楽しいと感じている	清澄な心	学校が楽しいと感じる 生徒の割合 80%以上	92.9	90.2	100.0
⑨自分には、良い所があると思っている		自分にはよいところがあると思う 生徒の割合 80%以上	84.5	92.2	100.0
⑩人の気持ちがわかる人間になりたいと思う		人の気持ちがわかる人間になりたいと思う 生徒の割合 80%以上	95.3	84.3	100.0
⑯メディアの活用について「居間9ルール」を守っている。	壮健な体	メディア（情報機器・ゲーム機等）使用の家庭のルールを守る 生徒の割合 80%以上	58.4	31.3 (-48.7)	37.5

【学びフェストの目標値を超えていない項目の分析】

・「メディア使用」に関わる項目の肯定的回答率が三者ともに低い

→情報通信機器を与えるかどうか、使い方についてどのような約束をするかはご家庭の考え・判断によりますが、いずれにせよ「親子で話し合ってルールを決めること」「親子で決めたルールを大切にすること」が肝要です。4月にお配りした本校まなびフェストには、「我が家のまなびフェスト」を記入する欄がございますので、是非ご活用ください。

→保護者の皆さんから「情報モラル教育」の要望がございました。

2学期中に生徒と保護者が学ぶ機会を持つ予定です。具体が決まりましたら改めてお知らせします。是非、多くの保護者の皆さんにご参加いただきますようお願いいたします。

・「将来の夢や希望を持っている」の肯定的回答割合がまなびフェストの目標値を下回っている

→「キャリア教育」の一環として、生徒が様々な生き方をしている人から直接話を聞く機会を企画します。

【その他～初めて ICT 端末による保護者アンケートを行ってみたいわかったこと】

ICT 端末によるアンケートは、保護者の皆さんは気軽に回答でき、学校としては集計に速さと正確さが期待できること、浮いた時間は教師が生徒のために使えるという利点があります。しかし意外なことに保護者回答率が低く、追ってプリントを配布しました。手軽な反面後回しになるのかもしれない。今後の検討課題です。

